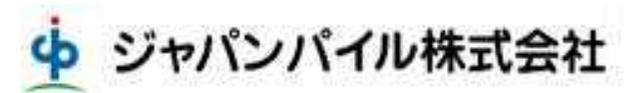


# 第9期(2014年3月期)決算説明会

2014年5月29日



I. 決算のポイント、主なトピックス	3	~	4
II. マーケットの動向	6	~	8
III. 第9期(2014年3月期)決算概要(連結)	10	~	13
IV. 経営概況	15	~	20

## I . 決算のポイント、主なトピックス

# 1. 決算のポイント

---

- ・2014年3月期は、マーケットが若干の増加となる中で、当社は大幅な増収増益となった。
  - (1)売上高は前期対比25.2%の増収、営業利益は107.1%の増益となった。
  - (2)コンクリートパイルは23.1%、鋼管杭は61.7%、場所打ち杭は27.1%それぞれ前期対比増収となった。
  - (3)当社のコンクリートパイルの完エシェアは前期対比1.8ポイントアップした。
- ・2013年12月にPhan Vu社(ベトナム)を連結子会社化した。

**計画を上回る大幅な増収・増益となった。**

---

## 2. 主なトピックス

---

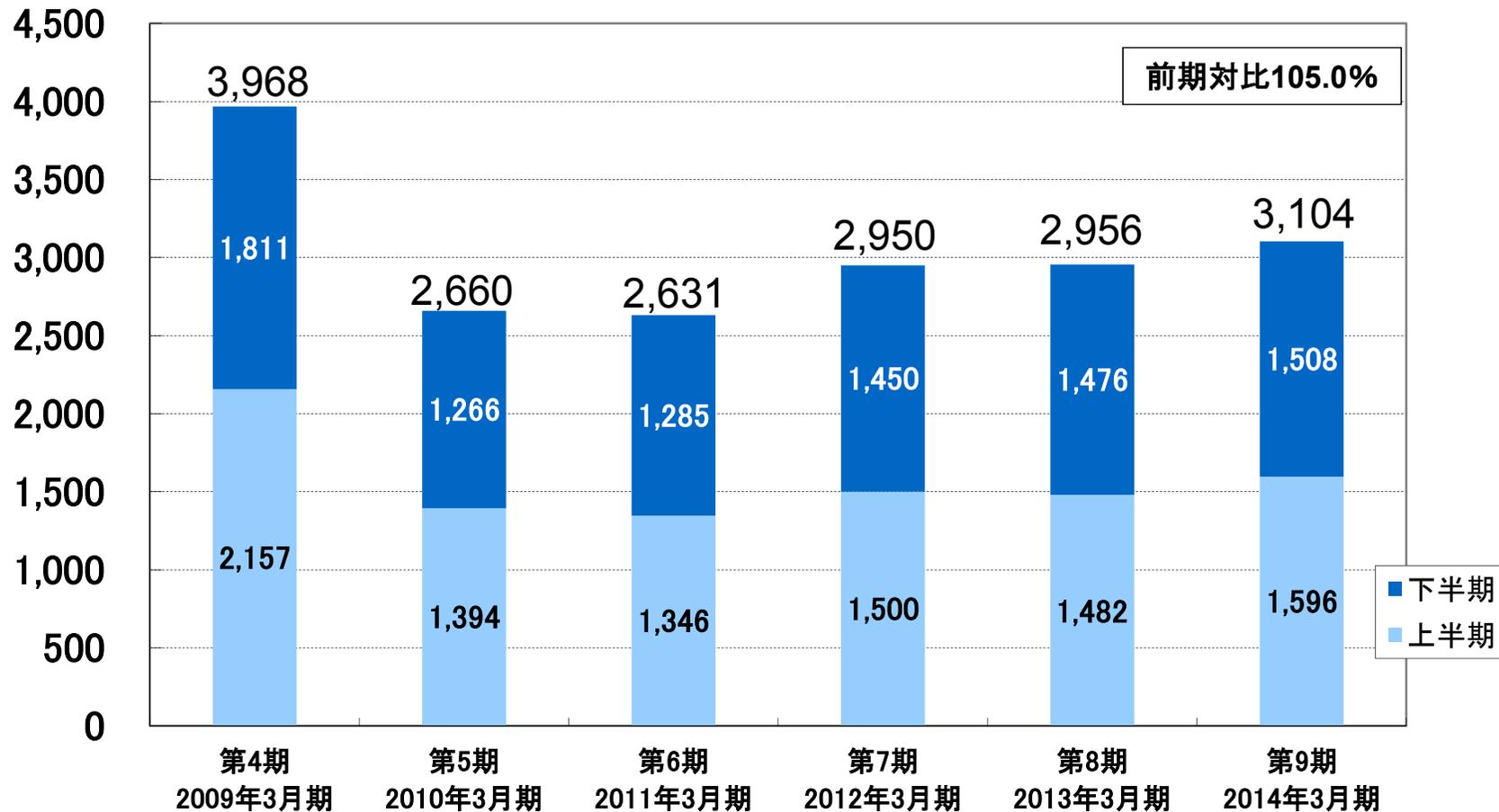
- 2013年7月 業績予想を上方修正するとともに、中間配当(5円)の実施予定を発表した。
- 2013年10月 ・ジャパンパイル基礎株式会社を基礎工業株式会社に吸収合併にて、  
ジャパンパイル基礎工業株式会社とし、施工能力の向上を図る。  
・Phan Vu社(ベトナム)に、2.7億円の追加出資を行った。
- 2013年11月 ・第2回の公募増資及び自己株式の処分並びに株式売出しを発表した。  
・業績予想を上方修正するとともに、年間配当金額を12円に引き上げた。  
・九州にて新工場の建設用地の取得を発表した。
- 2013年12月 Phan Vu社(ベトナム)の出資比率を、52.4%に引き上げ、連結子会社化した。
- 2014年 2月 ミャンマーのV-Pile社とPhan Vu社(ベトナム)と当社の三社でミャンマー国内における相互協力に関する覚書を締結した。
- 2014年 3月 三誠グループに対する出資を行った。

## Ⅱ. マーケットの動向

### 3. 全国コンクリートパイロ出荷量

コンクリートポール・パイロ協会資料

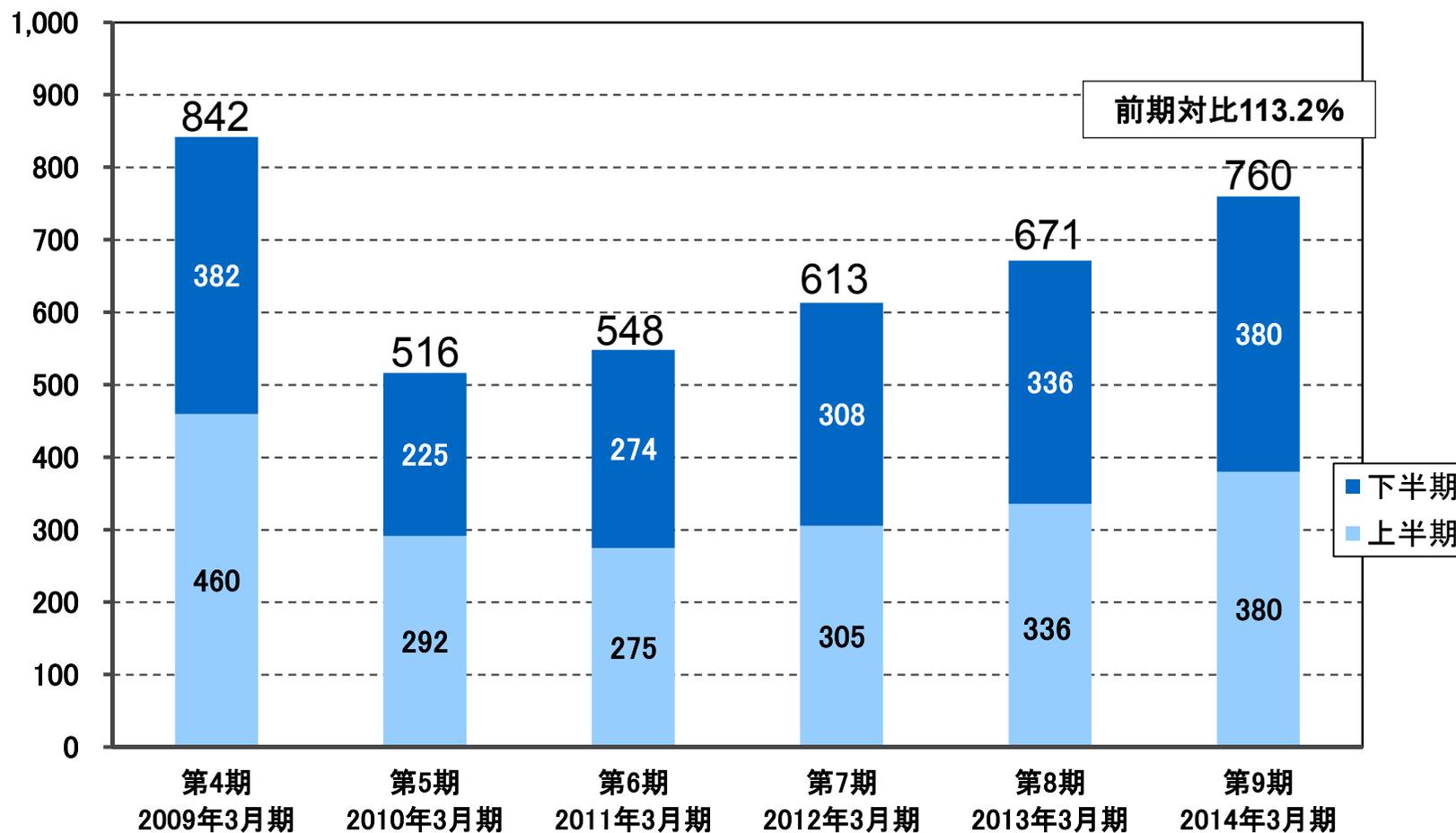
(単位:千トン)



コンクリートパイロの出荷は、若干の増加となった。

## 4. 当社のコンクリートパイプ完工量

(単位:千トン)



当社の完工量は、前年対比13.2%増加した。

## 5. コンクリートパイルのシェア

コンクリートポール・パイル協会資料

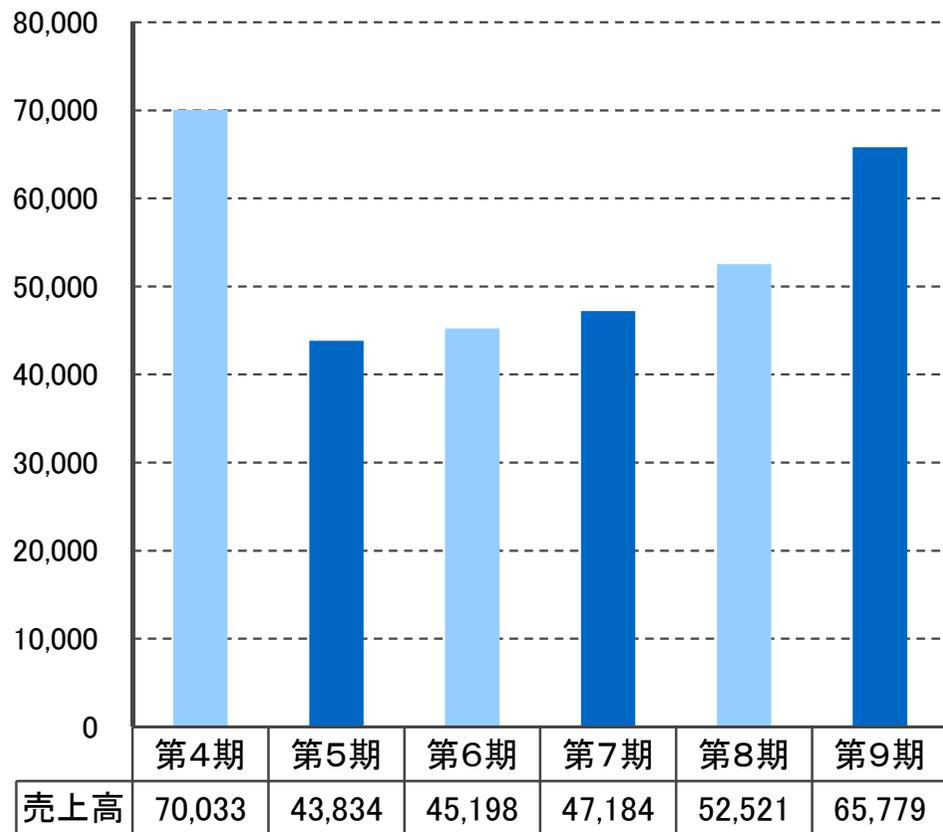
		第4期 2009年3月期	第5期 2010年3月期	第6期 2011年3月期	第7期 2012年3月期	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期
ジャパンパイル	出荷量(t)	779,308	439,231	498,000	546,784	639,806	710,708
	シェア	19.6%	16.5%	18.9%	18.5%	21.6%	22.9%
	完工量(t)	841,910	516,301	548,030	613,124	671,474	760,254
	シェア	21.2%	19.4%	20.8%	20.8%	22.7%	24.5%
三谷セキサン	出荷量(t)	779,435	590,959	582,583	747,655	686,894	757,701
	シェア	19.6%	22.2%	22.1%	25.3%	23.2%	24.4%
日本コンクリート工業	出荷量(t)	448,922	268,253	231,029	276,141	270,303	241,770
	シェア	11.3%	10.1%	8.8%	9.4%	9.1%	7.8%
日本ヒューム	出荷量(t)	351,674	220,663	211,968	250,656	222,848	269,879
	シェア	8.9%	8.3%	8.1%	8.5%	7.7%	8.7%
トーヨーアサノ	出荷量(t)	211,026	148,569	166,534	200,575	175,784	195,838
	シェア	5.3%	5.6%	6.3%	6.8%	5.9%	6.3%
上位5社計	出荷量(t)	2,570,365	1,667,675	1,690,114	2,021,811	1,995,635	2,175,896
	シェア	64.8%	62.7%	64.2%	68.5%	67.5%	70.1%
総出荷量	出荷量(t)	3,967,780	2,660,245	2,631,261	2,950,442	2,956,302	3,104,308

### **Ⅲ. 第9期(2014年3月期) 決算概要(連結)**

## 7. 連結売上高・営業利益の推移

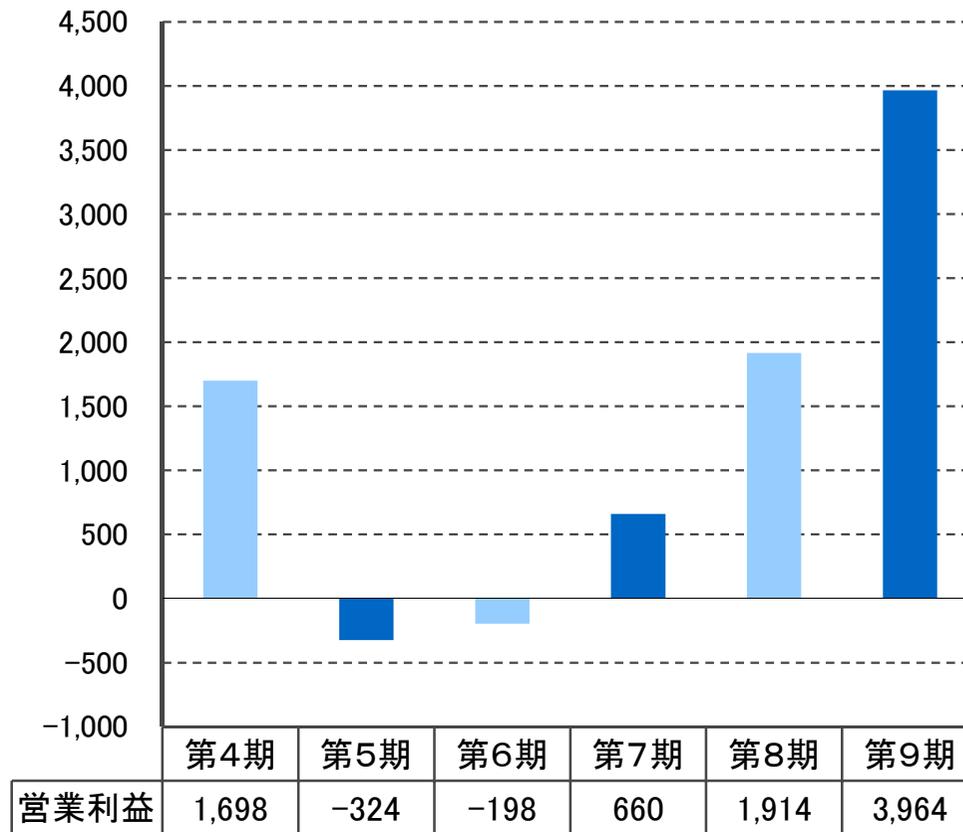
### 売上高

(単位:百万円)



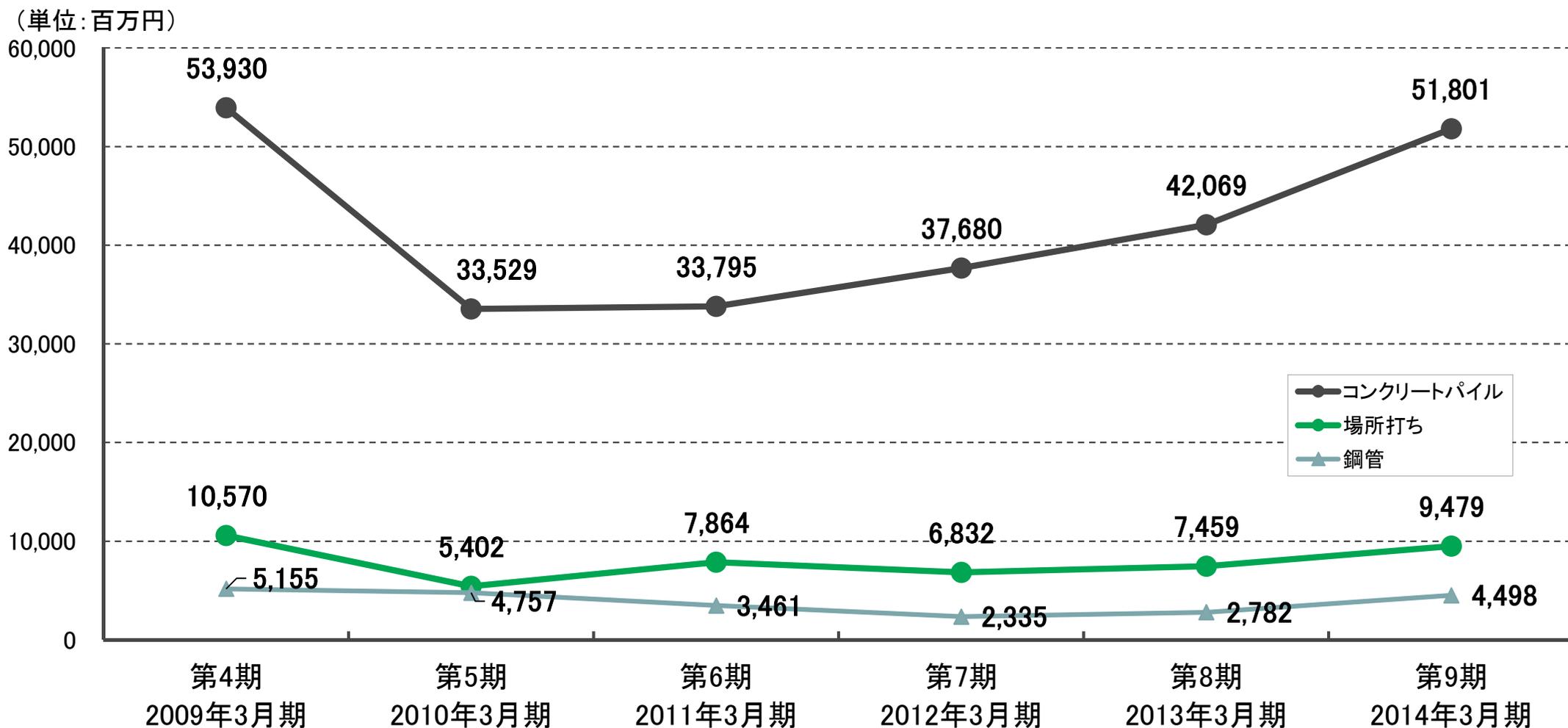
### 営業利益

(単位:百万円)



**売上高は前期対比25.2%増加、営業利益は倍増し過去最高益に。**

## 8. 部門別 売上高の推移



全部門とも増収となった。

## 9. 比較連結損益計算書

(単位:百万円)	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
売上高	70,033	43,834	45,198	47,184	52,521	65,779	67,000
売上原価	60,248	37,925	39,598	40,269	44,422	55,010	—
売上総利益	9,785	5,909	5,599	6,914	8,099	10,768	—
(売上総利益率)	(14.0%)	(13.5%)	(12.4%)	(14.7%)	(15.4%)	(16.4%)	—
販売費及び一般管理費	8,087	6,233	5,798	6,253	6,185	6,803	—
営業利益	1,698	△ 324	△ 198	660	1,914	3,964	3,850
営業外収益	532	618	474	528	503	570	—
営業外費用	181	254	229	225	251	295	—
経常利益	2,049	39	45	963	2,167	4,239	3,850
特別利益	104	360	155	12	119	50	—
特別損失	940	889	2,439	169	87	76	—
税金等調整前純利益	1,214	△ 488	△ 2,238	806	2,198	4,213	—
法人税等合計	889	21	△ 51	△ 542	163	1,511	—
少数株主利益	△ 10	△ 12	14	38	24	40	—
当期純利益	335	△ 498	△ 2,201	1,309	2,011	2,661	2,450

# 10. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
税金等調整前当期純利益	1,214	△ 488	△ 2,238	806	2,198	4,213
減価償却費	1,525	1,551	1,334	947	897	1,068
売上債権の増減 (△は増加額)	△34	7,462	△ 2,190	△ 1,014	△ 2,106	△2,276
たな卸資産の増減 (△は増加額)	1,823	1,486	△ 822	290	△ 1,471	548
仕入債務等の増減 (△は減少額)	△523	△ 6,351	3,097	103	3,533	1,317
その他	736	△ 2,301	1,378	486	△ 89	△359
<b>I. 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,743</b>	<b>1,358</b>	<b>558</b>	<b>1,618</b>	<b>2,963</b>	<b>4,511</b>
有形固定資産の増減	△1,641	△ 1,523	△ 246	△ 67	△ 131	△1,214
投資有価証券の取得	△ 181	△ 110	△ 150	△ 480	△ 625	△135
その他	103	30	△ 169	△ 32	44	△95
<b>II. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,719</b>	<b>△ 1,603</b>	<b>△ 565</b>	<b>△ 579</b>	<b>△ 712</b>	<b>△1,445</b>
借入金・社債の増減	1,271	216	△ 315	△ 120	△ 2,280	△1,995
配当金の支払	△312	△ 312	△ 208	△ 127	△ 203	△435
株式発行による収入	—	—	—	—	1,096	4,184
その他	△74	△ 210	△ 397	△ 355	△ 467	271
<b>III. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>882</b>	<b>△ 306</b>	<b>△ 921</b>	<b>△ 602</b>	<b>△ 1,854</b>	<b>2,025</b>
<b>IV. 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>7,109</b>	<b>6,557</b>	<b>5,630</b>	<b>6,067</b>	<b>6,463</b>	<b>11,564</b>

## IV. 經營概況

# 11. 経営概況

---

## 1. 前期業績大幅向上の要因

(1) 景気の状態が良好

(2) 総合基礎建設業の定着化

# 11. 経営概況

---

## 2. 前期の特徴

(1) 日本の建設業界の物理的工事能力の限界が見えた

(2) 建設価格が大幅に値上がりした

# 11. 経営概況

---

## 3. 当社にとっての前期

(1) 大型工事の増加 … スーパーゼネコンとの取引増加

(2) 海外事業で大きな進展

(3) 増資による投資資金の確保

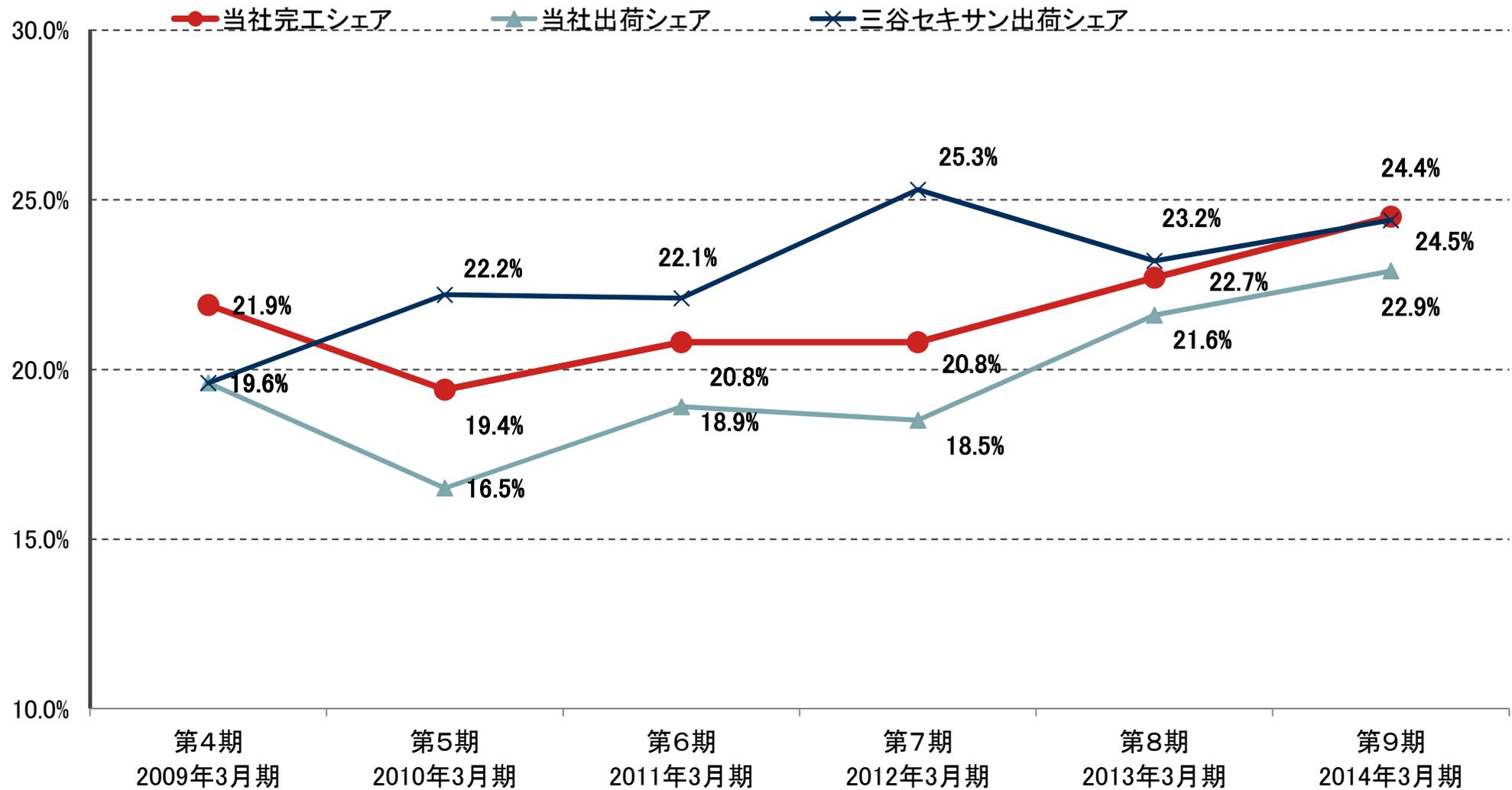
# 11. 経営概況

---

## 4. 今期の考え方

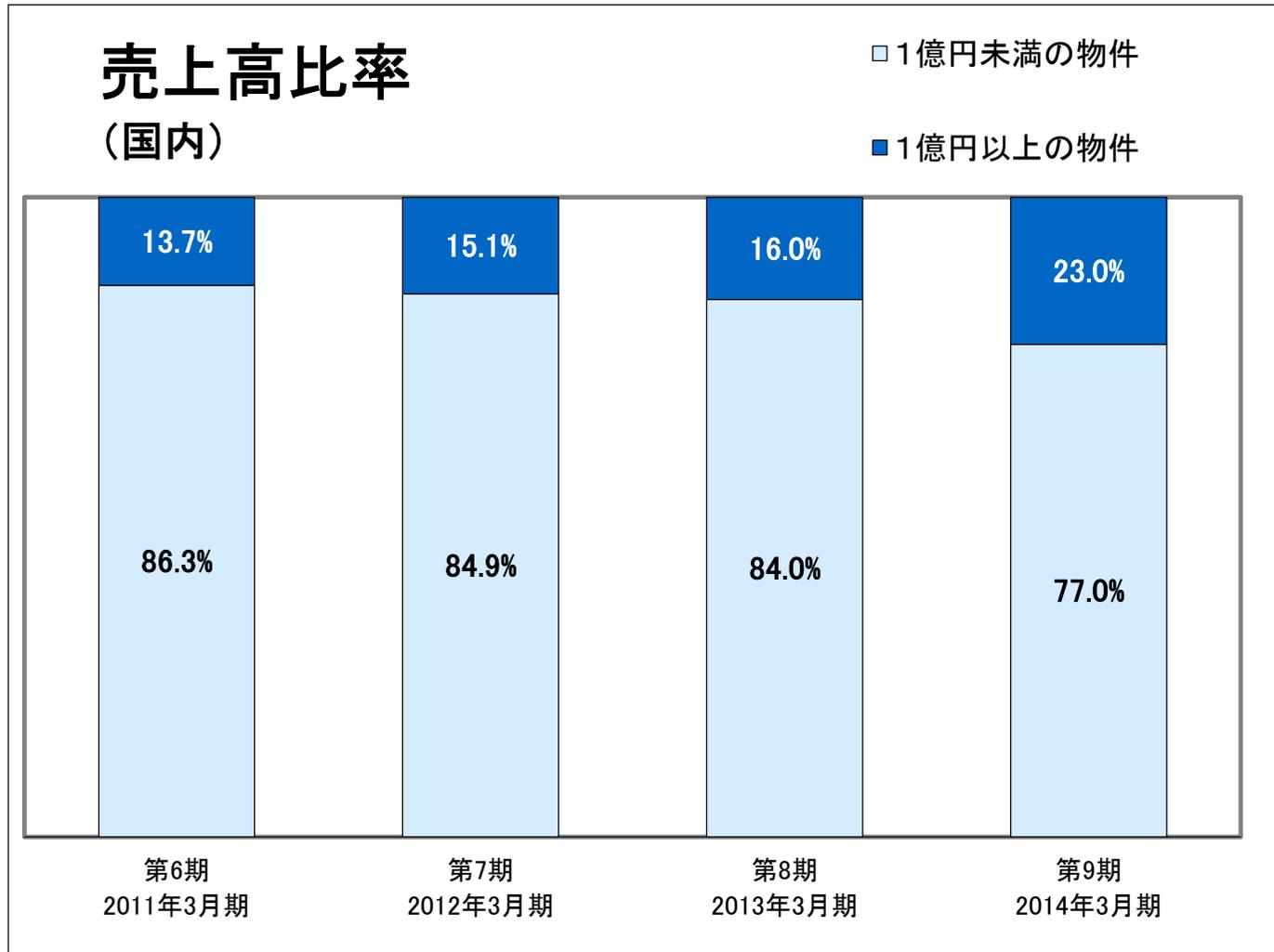
- (1) 業務環境は悪くない
- (2) ゼネコンの着工増加は夏以降
- (3) 工事量は物理的限界に左右される
- (4) 海外事業は順調に伸びる
- (5) 新5カ年計画
- (6) 今年度の位置づけ

# コンクリートパイプシェアの推移(国内)



**完工シェアは1.8%上昇した。**

# 売上規模別の売上高比率



**1億円以上の大型物件が増加した。**